

巻 頭 言

2023 年度年報 発刊にあたり

社会医療法人蘇西厚生会

理事長 松 波 英 寿

開院以来 122 年の長い歴史の中の、ここ 20 年の松波総合病院を中心とした蘇西厚生会の歩みをサマライズすると、制度面では H16 臨床研修病院、H20 社会医療法人、H23 DMAT 指定病院、H24 地域医療支援病院、R6 連携推進法人、地域がん診療連携拠点病院となりました。建物としては H26 北館、H27 南館改築、R1 エクステンション棟、R5 東館改築を完成させ病床数は 501 床となり、診療内容としてはほぼ全標榜科が稼働し、医療の流れから見ると、上流から、健診・人間ドック、外来、入院（高度急性期、急性期、回復期、慢性期（障がい者病棟）、老健、訪問診療を行っています。これらのすべての部門で深化・進化してきていますが、さらに拡大・深化・進化しなければならない状況になっています。なぜか？

それは、現在 私たちの法人に対する期待がますます大きくなり、その期待に応えなくてはならないからです。

戦後築き上げられた日本の医療体制が時代にそぐわなくなっていることは、しばしば論じました。多額の赤字を出す公立病院、各医療圏の過剰病床、役割分担ができない状況、医師・看護師等医療従事者不足、過重労働、地域間の医療格差 etc、これらの問題を解消すべく国がすすめているのが三位一体改革をふまえた地域医療構想です。各圏域で種々の問題が地域医療構想会議で討議されますが、ともすれば、病床数の問題が前面に出て、本丸である役割分担に切り込みにくいのが現状です。しかし大局的に見れば、過剰な医療資本を漸減する人口で維持することは不可能なので、今後、公立・公的病院に対する補助は漸減され、結果的にその機能の縮小・削減は必然でしょう。そこで存在価値が高まるのが、社会医療法人です。社会医療法人は医療保険業の法人税が非課税になる一方、出資持分等を放棄している団体ですが、そもそもは公立病院の受け皿として設立された経緯があります。すなわち、民間の活力に期待して、一部の公益性の高い医療を民間に移管しようとして作られた制度ですが、裏返せば、公立は活力がなく、将来の医療の担い手として期待できないと判断されているわけです。

私たちの蘇西厚生会は社会医療法人であり、さらに R6 年度から美濃市立美濃病院と海津市医師会病院と共に、連携推進法人として活動しています。まさしく国が望む制度に則って発展しています。全国の模範になるような形で今後も拡大・進化・深化していきたいと思えます。

2023 年度の年報作成に当たり、職員の皆さんにおかれましてはご苦勞様でした。発展が如実にわかる部門、新たな活動に取り組んでいる部門等、その内容を職員にも外部の方々にも知っていただくことは非常に大切なことです。

私たちの組織はまさしく地域医療の担い手として、そして今後の日本の医療の主要な担い手として発展しなければなりません。職員の皆様におかれましては、今後共よろしく願いいたします。また、この年報を見てくださる院外の方々におかれましては、ますます叱咤激励くださり、ご鞭撻くださりますようお願い申し上げます。

巻 頭 言

社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院

病院長 松 波 和 寿

COVID-19 が5類になり落ち着きは見せていますが、いまだに散発が続いています。社会生活はほぼコロナ前に戻っていますが、医療の世界ではいまだに脅威です。今後も続く覚悟が必要です。コロナ前後で医療経営は大きく変わりました。多くの病院では患者が減少しています。もちろん人口減少の影響もあります。さらに地球規模の異常気象などによる自然災害、異国の戦争による資源不足、円安物価高など極めて厳しい状態が続きます。特に光熱費の高騰は凄まじく節電により使用量は減っているものの費用は驚くほど多くなっています。常に節電にも心がけましょう。

その中において安定して、質の高い医療を継続的に提供し、地域住民を守るという責務を果たすために、今後も「オールマツナミ」で進んでいきましょう。幸い当院は研修希望者も多く若い方の育成も進んでいます。医師、看護師はじめ、スタッフの育成が近未来の病院のために必要です。働き方改革も大きな課題で、短い時間で効率よく仕事をこなすことが職員には求められます。各部署で様々なアイデアを出してください。IT、DX、AIなどの使い方をどんどん考えてください。

2024年4月1日には地域がん診療連携拠点病院の認定を受けました、次年度は救急において新たな認定を目指しています。

地域医療のために、職員一人ひとり、全職員が持っている能力と可能性をフルに発揮しましょう。常に変化する組織であり続けます。

巻 頭 言

社会医療法人蘇西厚生会

特別顧問 森 脇 久 隆

社会医療法人蘇西厚生会は医療機関として実に広範・多様な強みを持ち、2023 年度も高いレベルのパフォーマンスを発揮することが出来ました。中でも本法人の特徴は常々申し上げている通り①高度医療体制・救急医療体制が充実した②地域医療中核病院であり、その責務完遂にむけた③全職員の熱意と患者さまからの信頼感が極めて高いこと、同時に④豊富かつ高度な臨床データを解析し国際的な雑誌等に発信し続ける研究能力・機能が高いこと、と捉えています。2023 年度達成度の詳細は本年報に示されているとおりですが、全体のボリュームが膨大ですので、この巻頭言では上記①～④に関連して特にご覧頂きたい事項を小生なりにご紹介します。

まず①、②について私どもは高度医療・救急医療を最重要の担当領域とする地域医療中核病院として笠松町（岐阜医療圏）に立地し、岐阜市、羽島市、笠松町、岐南町、各務原市の患者さまが多数であることは勿論ですが、237 頁のマップにお示しする通り隣接する西濃医療圏、中濃医療圏、さらに愛知県からも大勢受診いただき、医療圏を超えた機能を大いに発揮しています。今後少子高齢化が一層進む中で広域での医療連携が必須となってきますが、私どもは美濃市立美濃病院（中濃医療圏）、海津市医師会病院（西濃医療圏）と地域医療連携推進法人「美濃国地域医療リンケージ」を構成し先端的な取り組みに挑戦します（実際の設立は 2024 年 4 月 24 日でしたので年報は 2024 年度版になります）。

次に③患者さまからの高い信頼感については、特異的なインジケターとして剖検率があるかと思えます。2023 年度の剖検数は 36 件（120 - 122 頁）でした。この数値自体が全国的にも最高位のグループに属しますが、大事な点は最近 5 年間のみを見ても、本院がこの数値を維持出来ていることです（241 頁、病理診断科の欄）。この継続は病院が持つ文化の一面を表すものと小生は考えています。

最後に④研究能力・機能ですが 2023 年度の業績一覧が 246 - 296 頁に示されています。講演、論文あわせて 451 点、うち論文は 61 点（日本語 25 点、英語 36 点）で、他施設や諸大学との共同研究も含まれ（このこと自体私どもが共同研究を組む相手として信頼されている証です）、優れた実績といえます。また本法人には研究を推進するベースキャンプとしてリサーチパークがあり（231 頁、場所は 55 頁の航空写真参照）、2015 年以来文部科学省から（公的な）科学研究費補助金を申請する資格のある研究機関として認定されています。このセンターが初めて文部科学省科学研究費助成事業に採択されました（73 頁）。これは快挙といえますが、研究自体のスタートは 2024 年度であり詳細のご紹介は次年度年報になります。

以上かいつまんで 2023 年度年報の読みどころをご紹介しましたが、①、②、③、④のいずれも数年にわたる事業の中間達成状況であるともいえます。私どもは今後ともこれら事業の継続・発展とともに、新しい方向性も希求し展開してまいります。

巻 頭 言

社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院

特別顧問 富 田 栄 一

2023年4月より、松波総合病院特別顧問として勤務しております富田栄一です。私自身は消化器内科医として臨床に携わりながら、少し離れた立場で松波総合病院と関わらせていただいておりますので、そのような観点から当院の特徴について述べさせていただきます。

当院は、岐阜県の地域医療構想において岐阜医療圏の急性期医療を担う病院の一つとして位置づけられており、また社会医療法人としても認定されていますので、地域医療の中での社会的任務は大きなものであると期待されております。一般診療のみならず、救急医療や高度医療の提供も必要とされており、それらを意識しながら変化の激しい医療環境に対応してきていると思います。DPC 病院群としては標準病院群ながら、先進的な医療も行っており、2024年4月には地域がん診療連携拠点病院として認定され、ハイパーサーミアの導入、最新放射線治療装置の導入などががん診療にも重点をおいてきており、将来を見据えた幅広い医療の提供を目指していると思います。

一方、2025年を見据えた現在の地域医療構想はほぼその役割を果たし、今度は2040年を見据えた次世代構想が検討されています。今後は高齢者の増加により、若年者の減少も相まって医療界はかつて経験したことのない状況を迎えようとしています。さらに、高額な新薬の登場、医療機器の進化、ゲノム医療の進歩、AIの進出なども加わって、医療環境は歴史的な激変の時期と思われますが、私たちはその方向性をしっかりと見極め、その中での自院の位置づけを考慮し、患者さんのQOLを第一に考えて質の高い医療を提供していく、その姿勢が大切であると考えております。

また、2024年の診療報酬改定では、従来の医療連携に加え、救急医療や医療・介護の連携などにも重点が置かれており、一医療施設で考えるのみではなく、地域他施設との連携も視野に入れる必要があると思われます。当院（社会医療法人蘇西厚生会）は、美濃市立美濃病院（美濃市）、海津市医師会病院（一般社団法人海津市医師会）と共に、2024年4月に認定された地域医療連携推進法人「美濃国地域医療リネージュ」の設立に関与し、より深い連携を目指しております。

このような多角的な病院運営をしていくためには、職員が同じ方向を向いてチーム医療を実践していくことが重要であり、それを目指すポテンシャルを有している病院であると思いますので、私も微力ながら貢献できれば有難いと考えております。

皆様方には、今後もしばらくとお世話になるとと思いますが、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

あ と が き

このたび、蘇西厚生会の2023年度（令和5）年報を発行することとなりました。この年報により、蘇西厚生会スタッフが我々の活動を再認識し、次年度のますますの進展につながるよう願っています。また、連携医の先生方を始め関係各所の皆様には、当院の活動内容をご理解いただき、今後ますます当院との強い信頼関係が築いていくことができましたら幸いです。

新型コロナウイルス感染症は2023年5月に「5類」へ移行されました。世間ではマスク着用や行動制限が大幅に緩和され、これにより、コロナ後の新しい生活様式が広がりました。しかし、医療現場においては相変わらずコロナ対策で多大な負荷がかかったままです。

重症化症例は減ってきているようですが、まだまだ予断は許さない状況です。地域中核病院としての使命を全うするとともに、患者さま、連携医の先生方に認めていただけるよう、これからも努力を重ねていく所存です。

皆様方の引き続きのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

副院長 診療局長 林 慎

年 報 2023 年度

令和6年11月発行

発行者 社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院
〒501-6062 岐阜県羽島郡笠松町田代185-1
TEL 058-388-0111 (代) FAX 058-388-2391
